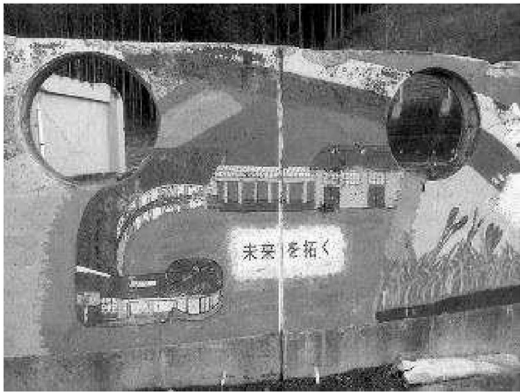




講演する只野哲也さん（左）と佐藤敏郎さん＝鴻巣市袋の県防災学習センターで



いまま大川小の校庭に残る「未来を拓（ひらく）」の文字＝佐藤さん提供

校歌のタイトルが「未来をひらく」だったので。あ、娘が夢で言っていたのはこれだったんだと気がつきました。

そこは震災後にできた新しい学校です。きっと見えないバトンが渡されたのかもしれない。



津波に流された今も校舎内に残る佐藤みずほさんの名前シール＝佐藤さん提供

はがれないのです。この前に立つと、今も毎日あの子たちが通ってきているみたい

制服を注文したら必ず着てほしい。「行ってきます」を言ったら「ただいま」を必ず言うこと。今日も世界中で元気な「ただいま」が響き渡りますように。

次女は6年生。中学入学が楽しみで、家ではいつもその話題でした。2011年3月1日は大川中学校の制服が出来上がる日で、帰ったら服屋さんに受け取りに行くことになっていました。セーラー服に袖を通して喜ぶ姿、見たかったなあ。

大川小学校の校歌は「未来をひらく」というタイトル。校庭の壁画にも書いてある言葉です。ここは悲しいことが起きた場所ですが、未来をひらく場所にならないかなと私はずっと考えています。

去年、和歌山の小学校で、大川小の子どもたちの話をするようになりました。出発する前日、夢に娘が出てきて「お父さんすてきなことがあるよ」とクスクス笑いました。何のことも分からずに和歌山に行き、小学校の体育館に入ってびっくり！壁に掲示してある

大川小は2階の天井まで津波が到達しました。それなのに子どもたちの名前のシールが8年たった今も、きれいに残っています。これは新学期に担任の先生が貼ります。子どもの名前を覚え、こんなクラスにしたいな、と願いを込めながら一枚一枚……。私も担任をしていた時はそうでした。

皆さんもロッカーや机に貼ってありますよね、名前のシール。あれは、津波をかぶっても